

一般社団法人おもやい

2021 年度 事業計画

□地域内活動

1. 訪問活動（新型コロナウイルス感染対策活動含む）

継続しての訪問活動を行い、関係機関との連携を図りながら進めていく。

2. イベント事業

おもやいフェスを始め、各種講習会を実施していくことで、地域との繋がりを広げていく。

3. 会員制「おもやい防災あんしんセット」の実施

今年度は会員の備蓄品の交換会などを行うとともに、必要に応じて会員を増やしていく。

4. ボランティア活動

継続して必要に応じてボランティア活動を行っていく。また区役への支援など地域の持続可能性につながる取り組みにも参画していく。

5. 大町町における多世代交流拠点整備・運営事業サポート

地域おこし協力隊を中心として、大町町における多世代交流拠点の整備、運営のサポートを様々な団体と連携をして行っていく。

6. 「おもやいフードリンク」事業の実施

昨今、地域内外において経済格差の広がりという課題への是正について様々な議論が進められている中、2019年に豪雨災害に見舞われた私たちの地域では、災害をきっかけにその課題への実感を強く感じ、地域の持続可能性の確保を行政のみならず、市民の手で担うことの重要性から活動を展開している。

特に「地域内外の支え合い」によって災害からの取り組みを進めているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴って外との交流が難しくなる中、改めて地域内での支え合いの新たな仕組みの必要性が高まっている。

そのため一つの取り組みとしての食品ロス、それによるゴミの削減などを目指すフードバンクを始める。

7. 防災に関する勉強会・講習会の実施

要望される地域に防災に関する講習会等を実施していく。また、その中からモデル地域を選定し、具体的な避難計画等の取り組みを実施していく。

□県内活動

1. 災害支援活動（相談業務も含む）

県内における災害発生時には、連携団体等情報共有を行いながら可能な支援を実施する。

2. 「おもやい生活再建支援金」の継続

昨年度の経験から支援金の必要な自治体へ配布できる体制を維持しておき、状況に応じて支援金の募集呼びかけを行い、罹災証明に沿って配布を行う。

□県外活動

昨年度7月の豪雨の被災地への支援活動を継続するとともに、九州圏内におけるネットワークを関係団体と構築を行いながら、今後の災害に備えた体制を整備していく。

□その他

1. 新たな拠点における実験的事業の実施

大町町に建設される「日本レスキュー協会」の九州支部に隣接する形で大町町が建設する関係CSOを対象としたシェアオフィスの管理運営と、敷地内においてのソフト事業を検討・実施する。

2. 佐賀県ふるさと寄附金（NPO等を指定したふるさと納税を活用した支援）の活用

おもやいの活動を継続していくためにふるさと納税を活用した資金調達を実施していく。必要に応じて他団体へと支援を広げられるようコンソーシアムとしての機能も模索していく。

3. 新規事業等の実施

上記以外に地域における課題や災害に関する課題等が問題提起され、必要と思われる事業等がある場合には順次実施をしていく。